

# 将来都市構造について

## 1. これまでの都市づくりと今後の課題

本市は、明治22年の市町村施行に伴い誕生した14町村を地域コミュニティの基礎として集落地を形成し、さらに土地区画整理事業などを実施しながら継続的に良質な住宅の供給を進めてきました。

また昭和44年の東名高速道路袋井ICの開設などを契機として、企業の進出が進み、市街地が発展してきましたが、人口減少社会の進行等により、様々な課題に直面しています。

### ■主な課題

#### ●拠点の維持・強化

生活利便性の低下、地域コミュニティの希薄化、空き地・空き家等による都市のスポンジ化 など

#### ●ネットワークの維持・充実

社会インフラの老朽化、公共交通の維持困難、広域連携の強化 など

#### ●土地利用の効率化・適正化

都市の拡散と用途の混在、自然環境・景観の保全、洪水・内水リスクの増大 など

## 2. 目指すまちの姿

人口減少や少子高齢化をはじめ、自然災害の頻発化・激甚化や社会インフラの老朽化など、地方都市が抱える様々な課題に対応し、生活の質を高め、多彩な交流が織りなすにぎわいにより持続可能な都市づくりを目指します。

## 3. 将来都市構造

将来都市構造は、市の成り立ちや目指すまちの姿等を踏まえ、都市の骨格を構成する「都市活動を支える各機能が集積した拠点」、「拠点を結ぶ都市の主要なネットワーク（軸）」、さらに「都市全体に関わる土地利用（ゾーン）」など、都市を形づくる空間的な構造を示すものです。

### 都市拠点・地域拠点・集落拠点をネットワークでつなぐ ふくろい版多極ネットワーク都市構造

#### 拠点の「機能強化」、「役割の明確化」、 拠点間を「つなぐ」

##### 都市拠点



医療・福祉・商業・子育て支援施設等の都市機能の誘導・集積により機能強化を図るとともに、地域拠点や集落拠点の都市機能を補完する役割を担う。

##### 地域拠点



それぞれ地域に応じた都市機能の誘導・集積と交通結節点としての機能強化を図り、集落拠点の都市機能を補完する役割を担う。

##### 集落拠点



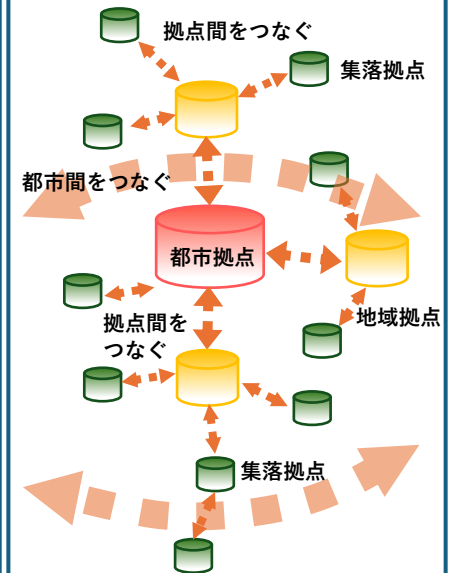
コミュニティセンター等を拠点とした地域づくりにより地域コミュニティの強化を図るとともに、市街地周辺に広がる農地や山林等を維持・保全し、美しい農の風景や丘陵地などの地域資源を活かしつつ守っていく役割を担う。

##### つなぐ

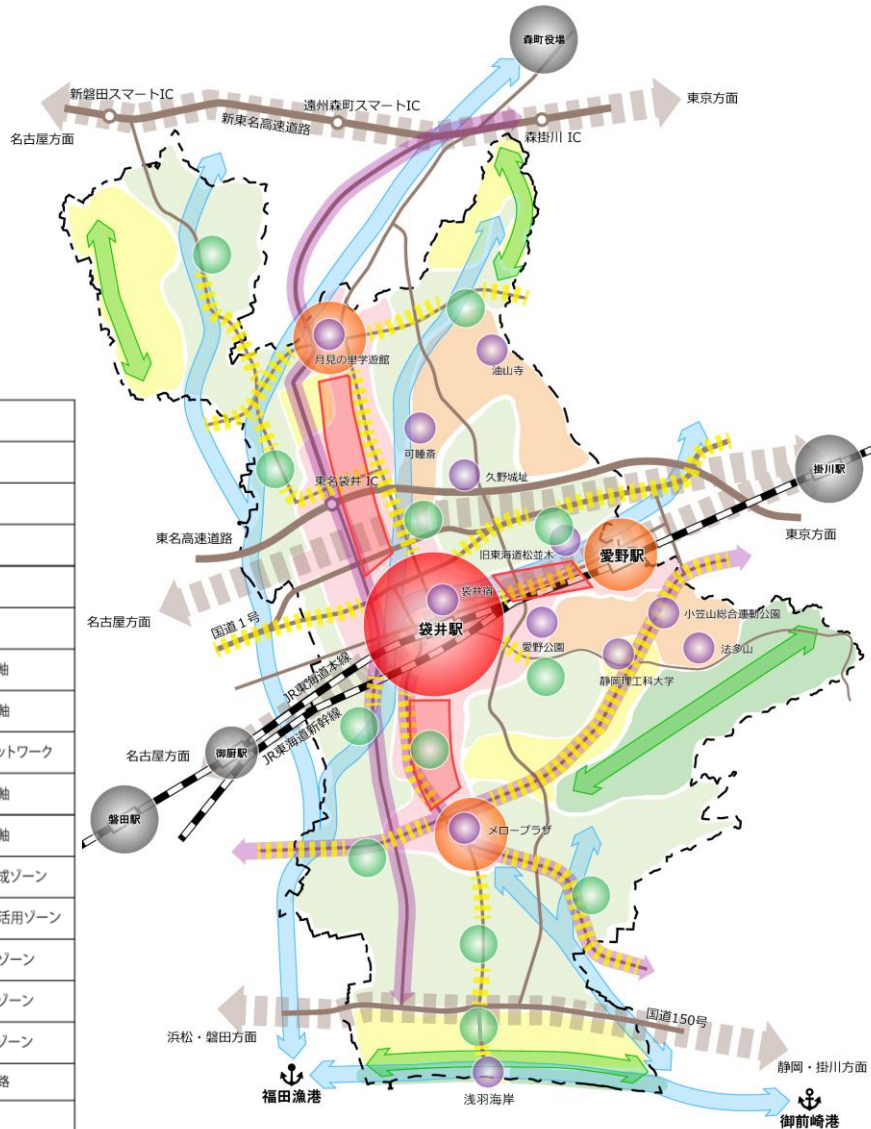


都市拠点、地域拠点、集落拠点をつなぐ道路・公共交通・ICT等のネットワークの維持・充実や他の都市をつなぐ広域的なネットワークの充実を図る。

#### 多極ネットワーク都市構造の イメージ



# 将来都市構造図



凡例	
拠点	<span style="color: red;">●</span> 都市拠点
	<span style="color: orange;">●</span> 地域拠点
	<span style="color: green;">●</span> 集落拠点
	<span style="color: purple;">●</span> 交流拠点
軸	<span style="color: red;">▬</span> 都市軸
	<span style="color: orange;">▬</span> 広域連携軸
	<span style="color: purple;">▬</span> 近隣連携軸
	<span style="color: yellow;">▬</span> 拠点間ネットワーク
	<span style="color: blue;">↔</span> 水の景観軸
	<span style="color: green;">↔</span> 緑の景観軸
ゾーン	<span style="color: red;">■</span> 市街地形成ゾーン
	<span style="color: yellow;">■</span> 地域資源活用ゾーン
	<span style="color: orange;">■</span> 地域交流ゾーン
	<span style="color: lightgreen;">■</span> 田園集落ゾーン
	<span style="color: green;">■</span> 自然共生ゾーン
<span style="color: brown;">▬</span> 主要な道路	
<span style="color: black;">▬</span> 鉄道	
<span style="color: black;">- - -</span> 行政区境界	

## 拠点

- 都市拠点** JR袋井駅周辺及び袋井市役所周辺  
 都市機能の誘導・集積、魅力とにぎわいのある住環境の創出、交通結節点機能の強化を図り、市全体の活動の中心となる拠点の形成を目指す。
- 地域拠点** 上山梨地区周辺、JR愛野駅周辺、浅羽支所周辺  
 地域に応じた都市機能を誘導・集積し、地域活動の中心となる拠点の形成を目指す。また、交通結節点機能の強化と特性を活かした個性的で魅力ある住環境を創出し、居住の維持・誘導を目指す。
- 集落拠点** コミュニティセンター等の公共施設を中心としたエリア  
 都市拠点や地域拠点との連携を図りながら地域づくりに取り組み、コミュニティ強化と住環境を維持し、良好な集落地を形成する。また、周辺の良好な自然環境や農の風景を維持・保全する。
- 交流拠点** 遠州三山（法多山、可睡斎、油山寺）、旧東海道松並木、袋井宿、小笠山総合運動公園エコパ、メロープラザ、月見の里学遊館、浅羽海岸 等  
 歴史的資源や文化・レクリエーション施設等、魅力ある観光資源を活用することでにぎわいのある拠点の形成を目指す。

## 軸

- 都市軸**  
 都市拠点と3つの地域拠点を効果的に結ぶ南北と東西の軸
- 広域連携軸** 新東名・東名高速道路、国道1号、国道150号、JR東海道新幹線、JR東海道本線  
 周辺市町や大都市圏との広域的な連携を図るための高速道路や広域幹線道路、鉄道
- 近隣連携軸** (都) 森町袋井インター通り線、県道袋井大須賀線、県道磐田掛川線  
 隣接する市町との連携・交流を促すための広域連携軸や拠点間を結ぶ主要幹線道路
- 景観軸** 宇刈丘陵地、小笠山丘陵地、磐田原台地、(一) 太田川、(二) 原野谷川、浅羽海岸等  
 浅羽海岸、(二) 太田川、(二) 原野谷川等の河川、小笠山丘陵地等からなる緑の稜線

## ゾーン

- 市街地形成ゾーン**  
 都市拠点と地域拠点を中心に、利便性が高い都市生活環境と景観形成に配慮した居心地が良くうおいのある都市空間の形成を図り、誰もが住みやすい居住エリアの形成を図る地域
- 地域資源活用ゾーン**  
 近隣連携軸に近接した地域を中心に、周辺の集落地や景観と調和しながら、地域特有の立地特性や資源を活かして地域の価値や活力を高める地域
- 地域交流ゾーン**  
 地域資源と調和した都市形成と、資源の積極的な活用・保全により交流機能の強化を図るとことで、多くの人々が訪れ、にぎわいを創出する地域
- 田園集落ゾーン**  
 市街地周辺の集落地と、その周辺に広がる、生産基盤が整備され、保水や水源かん養等の公益的な機能を有する優れた農地
- 自然共生ゾーン**  
 自然環境を保全・活用し、人々のゆとり・やすらぎの創出を目指す地域

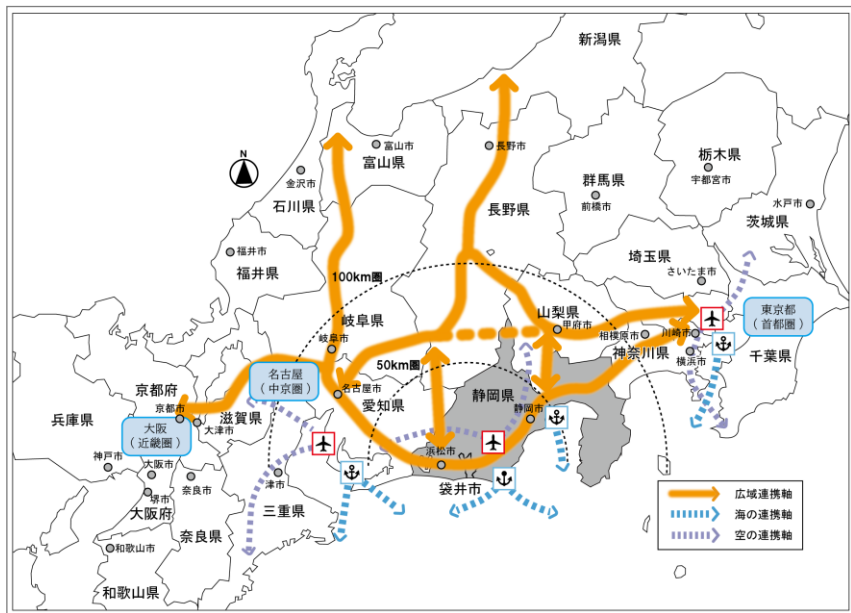
## 4. 連携の強化

にぎわいの創出や持続可能な都市の実現には、大都市圏をつなぐ**広域連携軸**、周辺市町をつなぐ**近隣連携軸**など、その地域に住む市民や企業等にとって不可欠な都市基盤施設の連続性を確保する必要があることから、周辺市町との連携を十分に踏まえたうえで都市づくりを進めます。

### 4-1. 広域的な連携

本市は、本市と三大都市圏（首都圏、中京圏、近畿圏）を結ぶ、国土形成の骨格を成す**広域連携軸**（新東名高速道路、東名高速道路、国道1号、国道150号、JR東海道新幹線、JR東海道本線）が横断しています。東名高速道路の袋井ICを備えるとともに、新東名高速道路の森掛川ICへも近く、東京へは240km、名古屋へは140km、京阪神へは280kmと交通条件に恵まれています。

この広域連携軸による**陸**（主要都市）・**海**（主要な港）・**空**（空港）の3つのゲートへのアクセスの優位性を活かし、本市が東海地域の主たる一員として機能するとともに、産業、業務、研究開発、物流の拠点を創出していくため、自治体としての自律性をさらに高めていきます。



### 4-2. 周辺市町との連携

広域連携軸を補完し、周辺市町を結ぶ（都）森町袋井インター通り線、市道湊川井線、県道磐田掛川線、県道袋井大須賀線は、**近隣連携軸**として、市内の産業・物流等や周辺市町との連携を支える重要な道路です。

また、静岡県を支える産業集積地である中東遠地域において、高速道路のダブルネットワークの確立と南北アクセスの強化は、新たな産業立地の促進や地域産業の活性化、交流の促進による市の活性化や防災面での貢献が期待されます。

